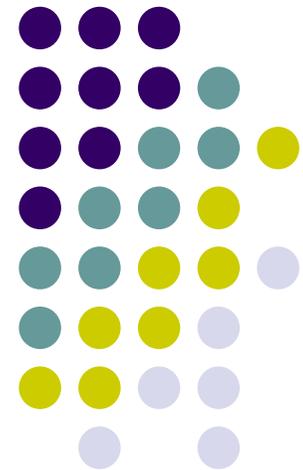


診療所を中心とした プログラムについて

後期研修プログラムWorkshop
診療所班





カリキュラムの目標について

- 「家庭医療に必要な基本的能力と専門的知識を身に付ける」
- 各論としては、前回のWorkshopで提示された7つの枠組み、並びに、学会のたたき台で示された6項目を基盤とする



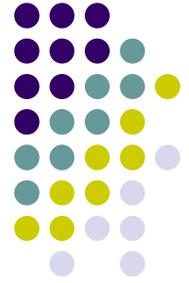
カリキュラムの全体構造

- 病院研修：1年間
 - 病院にて他科の病棟及び外来を利用した研修
- 診療所研修：2年間
 - 診療所での外来・訪問・地域連携などの幅広い研修
- 選択研修：適宜
 - 研修後のキャリアに備えて個別化された内容



病院研修の枠組み

- **ブロックローテーションタイプ**
 - まとまった経験が必要
 - 例：内科(重症疾患)、小児科、救急、産婦人科
- **選択外来研修タイプ**
 - 診療所研修に組み込むことも可能
 - 例：外科、整形外科、皮膚科、精神科、耳鼻科、眼科、放射線科、超音波、内視鏡
- **ハーフデイバック** (定期的に診療所研修を継続)



病院研修の内容

- 望ましい内容については多様な意見があった
- ただし、初期研修での経験、診療所研修で対応可能な経験に応じて、内容を個別化することも必要になる
- 短期間であるため、目標を明確にすることが重要



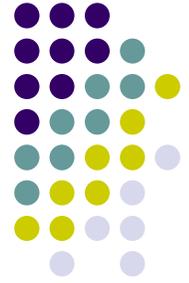
診療所研修の枠組み

- 一定期間継続する診療所研修
 - 最低1年間を必要とし、四季を通じた地域医療の経験を通じて地域を知る
 - 初期研修でのハーフデイバックを前提とした連続性がある場合は、6ヵ月なども可能
 - 病院の選択外来研修も同時に継続
- 複数の診療所での短期研修
 - 複数の指導医や異なる診療セッティングから得られる多様な学びも価値有り



診療所研修の内容(1)

- 質の高い外来研修（「きちんと」やれる）
 - 生活に密着した慢性疾患の管理
 - 行動科学・患者中心の医療の実践
 - 適切な検査や紹介を実施できる能力
- 患者の生活に寄り添うチーム医療
 - 訪問診療
 - 地域の医療関係者とのネットワーク



診療所研修の内容(2)

- 社会的資源の活用
 - 地域保健福祉の学習
 - ケアカンファレンス、介護関係者の同行
 - 予防 / 社会医学(検診、予防接種、学校医、産業医)
- 診療所の運営
 - レセプト業務



診療所研修の管理

- 家庭医の資質を持った指導医の認定
 - 指導医コース受講、相互評価、訪問調査による質の保証
- 研修医雇用の経済的基盤
 - 一般診療所で可能なのか？
 - 学会・国の支援は？



研修全体の評価

- 必要な能力をきちんと修得したことを保証する評価システム
- 知識 / 技術 / 態度の定着を確認
- 定期的な形成的 / 総括的、相互評価が重要



その他

- 地域にあったプログラムの重要性
 - 沖縄での離島研修プログラムの独自性
 - 住民のニーズを聞き入れること
- 一定のレベルに達した専門医を提供することが、地域住民に対するプログラムの責任